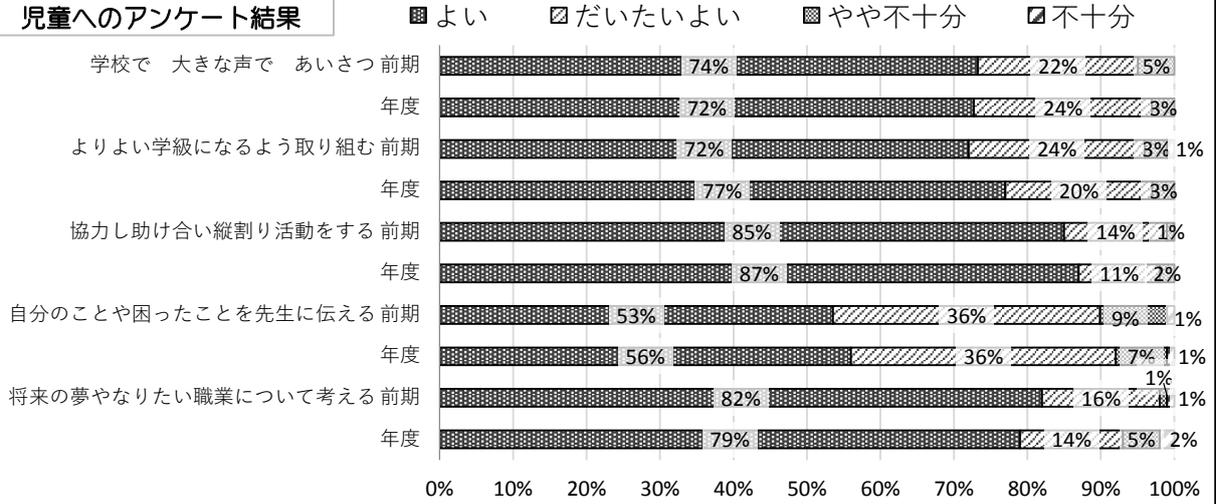


# I 思いやりの心 たくましい心

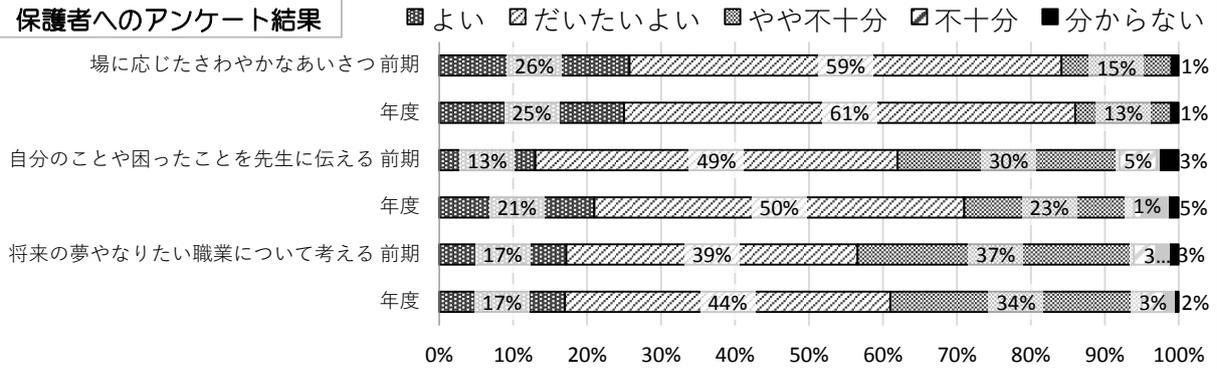
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
人を思いやり、助け合う心情と態度を醸成しながら、自立への基礎をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	あいさつについては、あいさつ運動や放送での紹介がよい。あいさつされた人が気持ちよくなるのがよいあいさつだと子どもたちは話している。保護者も、子どもたちのあいさつがはきはきして心がかたまること。子どもは自分たちのあいさつがよいと感じているが、先生方は求めているレベルが高い。足りないものを子どもに教えることが必要。縦割り活動についてはアンケート結果がよく、すばらしい。
	年度	良好	良好	全体的によくできている。あいさつ運動については、大きな声にするため、少し遠い位置からのあいさつを奨励するなど工夫した取組が評価できる。職員によると、来客への声が少し小さいことが課題とのこと。異学年集団の活動については、以前から縦割り活動がよく行われている。上小の子の徹底行動も子どもたちがよく心がけているので、来年以降も取り組んでほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (1)校内でのあいさつは、毎月のあいさつ運動や、あいさつボランティアの取り組み、よいあいさつができた児童を放送で紹介したことで、進んであいさつをする児童が増えてきている。今後も、相手が気持ちよくなる明るいあいさつを習慣化できるように、児童会や学級での話し合い等を通して、児童主体のあいさつ運動を行ってきたい。 (2)各学団で学年目標を発表したり、仲間意識を深めたりする学団集会在、主体的に行われている。 (3)児童会のテーマを意識しながら、高学年の児童を中心に意見を出し合い、委員会の日常活動や集会活動を主体的に行っている。また、給食の時間を利用して放送で呼びかけたり、掲示物で活動を知らせたりと、各委員会が工夫している。今後は、さらに自主的な活動になるように、これまでの活動の見直しを図り、児童の実態に合った活動を行うことができるようにしたい。縦割り活動での協力については「よい・だいたいよい」と答えた児童が99%で、仲良く助け合って縦割り活動ができている。今後も、異学年同士で協力し合うことができるような取組を続けていきたい。 (4)(5)教育相談週間を設定し全員と面談することで、悩みを抱えた児童に丁寧に対応してきた。問題行動などについては、組織的に、早めに対処することができた。			
	【年度(→次年度)】 (1)毎月のあいさつ運動を児童が主体となって取り組めるように工夫したり、あいさつボランティアの奨励や放送での呼びかけを継続したりすることで、率先して元気なあいさつをする児童が増えた。しかし、誰に対しても進んであいさつをするという姿はまだ十分ではない。今後も、児童会や学級での話し合いやあいさつ名人の掲示の工夫、放送での呼びかけ、教師が手本となる姿を示すことを通して、誰に対しても明るく元気なあいさつができるようにしたい。 (2)各学団で行った学団集会在では、各学年で役割を分担し、主体的に活動した。ゲーム等で関わって仲間意識を深めたり、次の学年に向けての意識付けを図ったりすることができた。 (3)児童会活動では、高学年児童が中心となって意見を出し合い、具体的な活動を提案し、実行してきた。日々の活動や集会活動に積極的に取り組む姿が見られた。また、縦割り班活動では、リーダーとなる高学年の児童が低学年に対し優しく接することができ、清掃活動や縦割り班遊び等で仲よく活動することができている。今後は、縦割り活動で互いに関わり合い、協力し合うことができるようにしていきたい。 (4)(5)教育相談週間を設定し、事前のいじめアンケートをもとに学級担任が児童全員との面談を実施し、悩みを抱えた児童に丁寧に対応してきた。また、校内いじめ・不登校対策委員会を開き、全職員で共通理解を図った。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1)場に応じた言葉遣いとさわやかなあいさつ	振り返りカードを活用した自己評価と実態把握 あいさつ運動の実施 ハートデーの実施	3	3
2 集団生活・集団活動	(2)認め合い、高め合う学級・学団	学級経営・学団経営の充実 学級活動や学団活動、行事における活躍の場の設定と適切な称揚	4	4
	(3)協力し、支え合う異学年集団	児童の考えを生かした児童会活動の充実 縦割り班による活動(清掃、委員会活動、児童総会等)	3	4
3 一人一人のよさの発揮	(4)児童理解の充実	いじめアンケートや教育相談週間の実施と活用	4	4
4 組織的な生徒指導	(5)指導支援の充実	児童を語る会や就学指導委員会、ケース会議の充実と全職員による支援体制の確立 スクールカウンセラー等外部機関と連携した支援	4	4

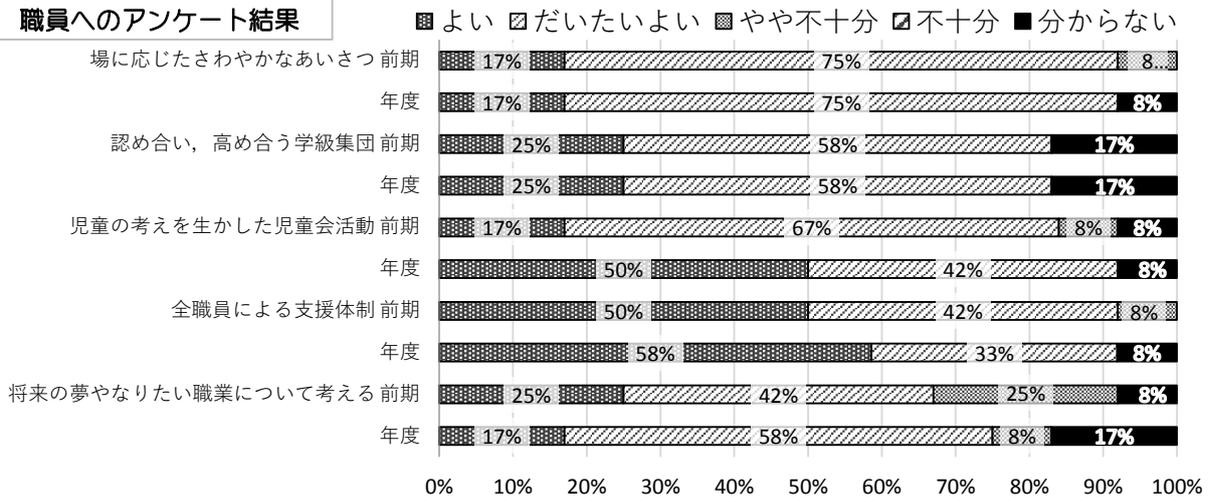
### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



### 職員へのアンケート結果



あいさつ運動



縦割り班遊び

いじめに関するアンケート

### 「いじめ」に関する調査

小学校中・高学年用(第2回7月～11月)

年 男 女

1 「いじめ」について、あてはまる答えの [ ] に○をつけてください。

(1) あなたはいじめを受けたことがありますか。 あり [ ] ない [ ]

☐ (1)で「あり」に○をつけた人だけ(2)～(4)に答えてください。

(2) そのいじめはまだ続いていますか。 続いている [ ] いまはない [ ]

(3) だれにいじめられましたか。

(4) どんないじめを受けましたか。(あてはまるものをすべてに○をしてください)

① 冷やかしの、からかい、言葉でのおどし [ ]  
「ばか」「うざい」「くさい」「きたない」「死んでしまえ」「返んなでろ」など、ひどいことを言われる。

② 仲間はずれ、無視 [ ]  
仲間に入れてくれなかったり、無視されたりする。

③ 暴力 [ ]  
たたかれたり、けられたり、プロレスのわざをけられたりする。

④ お金や物をとられたり、隠されたりする [ ]  
お金や物をとられたり、隠されたりする。  
また、物を奪って口に費される。

## II 基礎学力の定着

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基礎学力の定着と表現力の育成を通して、主体的に学び合うことのできるよう工夫している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	今年度の取組の「アタックスタート」は、子どもたちがよく理解し、浸透していた。授業参観の様子からも、全体的に発表の声が大きくなったと感じる。今は、何かを調べる時にタブレットを使う時代だが、国語では辞典を使っているのだと感じた。家では、メディアを利用する場合は家庭学習をやってから、という生活が定着してるのでよい。
	年度	良好	良好	タブレットの活用については、子どもたちは情報量が多く楽しく学習できると感じている。先生方は、話し合い活動をステップアップするためのタブレットの活用の仕方に難儀をしているところもあるが、学習活動の充実のため今後も活用していくことを期待している。学力の定着のための取組もよく、「基礎学力の定着」が3から4へあがっていることがよい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期(→年度)】

(6) 基本的な学習習慣の形成のため、学期はじめに「学習の約束」強調週間を設定した。レベル目標を決めて取り組んだが、忘れ物やチャイム席、話し方の自己評価が低かったため、今後は目標を焦点化した強調週間や呼びかけを行っていく。

(7) 授業では、学び合いを深める「ステップアップタイム」の設定、話し合い活動の充実のための学び合い言葉や反応言葉などの提示を行った。また、上学年の授業を児童が参観する「子ども授業参観」を行い、自分たちの学習に生かせるようにした。自分の考えを書くことや発表することについては9割の児童が「よい・だいたいよい」と答えているが、保護者の3割は「やや不十分・不十分」と答えている。語彙を増やし、言葉への意識を高めることができるように、引き続き「ことばタイム」の川柳づくりやスピーチタイムで指導していく。また、言葉のはじめに力を込めて話すことができるように、合い言葉「アタックスタート」を継続して呼びかけていく。

(8) 学びのあとが分かる掲示や、取組の参考となる作品の掲示を行っている。図書活動では、担任のおすすめ本コーナーや新聞コーナーを設置して様々な分野の読み物を手に取りやすくしたり、朝読書や図書委員による読み聞かせを行って意欲的な読書につなげたりした。また、図書室の活用を促すために、先生方のおすすめの本を展示した。花壇や学習園・学校田も地域の方の協力を得ながら活用し、体験的な学習の充実を図っている。

(9) 振り返りの時間を確保し、思考の再構築を図っている。振り返りの視点を提示することで、意識して学びを振り返ることができるようになってきている。また、単元ごとに行っているテストを活用し、補充指導を行っている。後期はパワーアップタイムを設けることで、個々の補充を行い、基礎学力の定着を図る。

【年度(→次年度)】

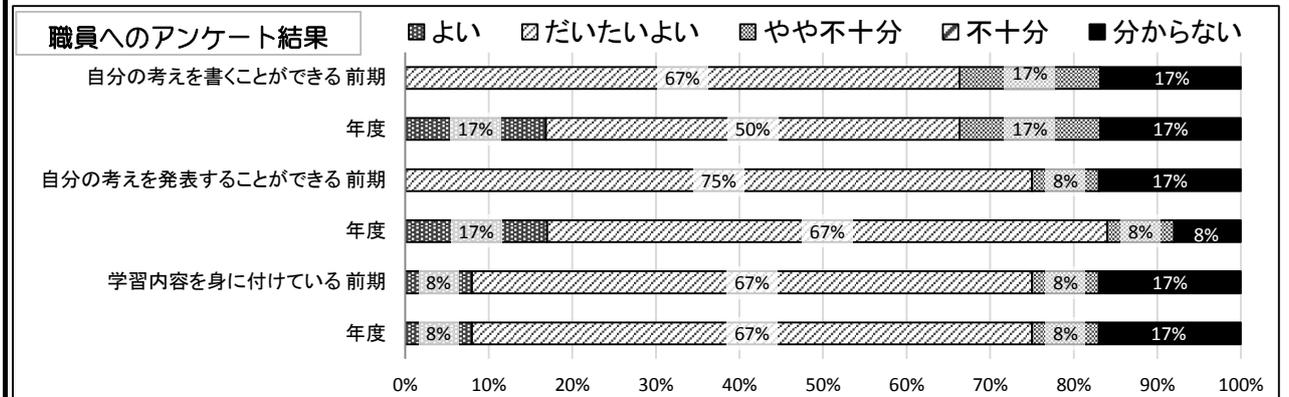
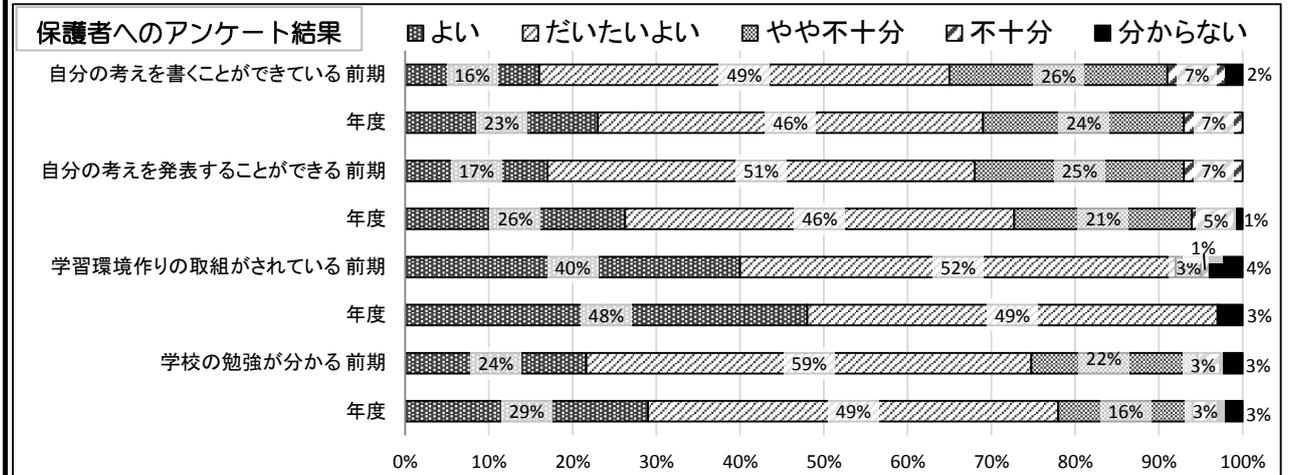
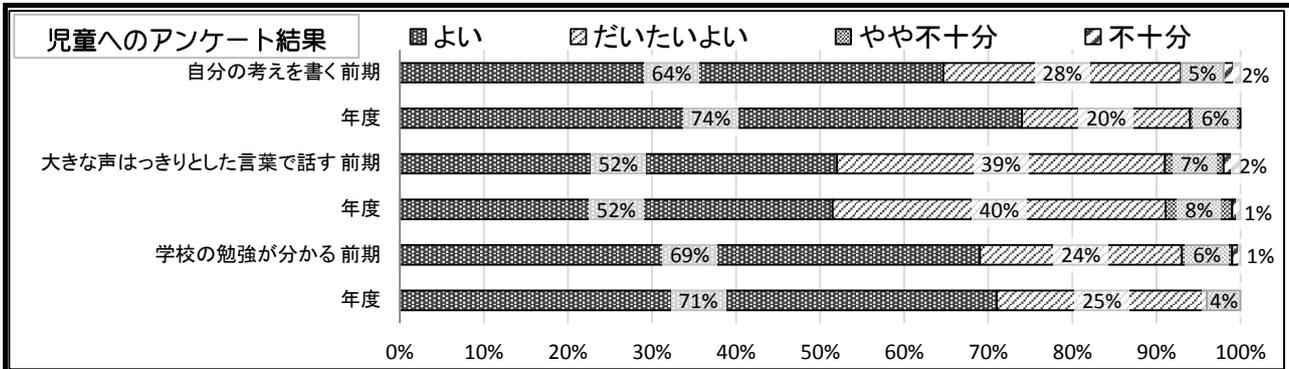
(6) 学習習慣は、月の目標に合わせて学習強調週間を設定し、継続して指導することができた。「話す・聞く」スキルチェックでは、言葉のはじめに力を込めて話す「アタックスタート」に重点を置き、掲示を活用して取り組んだ。授業中や行事の際にも、教師が「アタックスタート」を呼びかけることで、より意識化を図ることができた。家庭学習は、友達や上学年のノートのよいところを自分のノートに生かすことができるように、全校ノート展を行っている。2月には家庭学習がんばり運動を実施し、内容がさらに充実するようにしていく。

(7) 日々の授業では、ペアやグループでの学び合いを設定することで主体的に学習に臨み、「ステップアップタイム」などの話し合いの場で、意欲的に発表することができるようになってきた。また、授業の導入や学び合いの際に、ICTを有効に活用し、学びを深めることができた。言葉への意識を高めるために「ことばタイム」では川柳作りを行っている。今年度は俳句作りにも挑戦し、季節の言葉を意識して取り組むことができた。語彙を増やし、活用していくことができるように、引き続き「ことばタイム」や読書活動に取り組むとともに、ICTを活用し、学びをステップアップさせる授業づくりも推進していきたい。

(8) 学習環境は、学習コーナーや関連図書コーナーなどで学習の跡を残している。また、友達への考えや表現方法を知る機会を増やすために、全校作文展を開いた。このことが、「自分の考えを書く」ことで「よい」と答える児童の増加につながったと考えられる。図書室には、季節に合わせたおすすめの本を紹介するコーナーを作った。図書室を利用する児童は増えてきたが、さらに、多くの児童が図書室に行きたくなるような環境作りを行っていく。

(9) 放課後パワーアップ学習は全職員体制で行い、習熟度別グループを作って個に応じた指導ができるようにした。学力テストの結果を分析して、6年間を見通した各教科の指導の留意点について全職員で確認し、今後の指導に生かしていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 学習への取組	(6) 基本的な学習習慣の形成	「学習の約束」強調週間の設定と継続指導 家庭学習の充実 朝読書の実施	3	3
	(7) 思考力・判断力・表現力の育成	言葉の力を育み、学びをステップアップさせる授業づくり ノート指導・話型指導の充実 「ことばタイム」の実施	3	4
	(8) 学習環境の整備	学習コーナーの充実 参考作品の掲示による啓発 図書活動の充実	4	4
	(9) 基礎学力の定着	授業における評価の活用 パワーアップタイムの実施 学習状況の分析と共通理解及び補充指導の実施	3	4



〈図書室の季節のおすすめ〉  
季節に合わせた本を平置きにし、様々な本に触れることができるようにしている。



〈ICTを活用した授業の実施〉  
学び合いを効果的に行うための、ICTを活用した発表。



〈俳句発表会〉  
冬の季語を使った俳句をつくり、全校で発表会を行った。



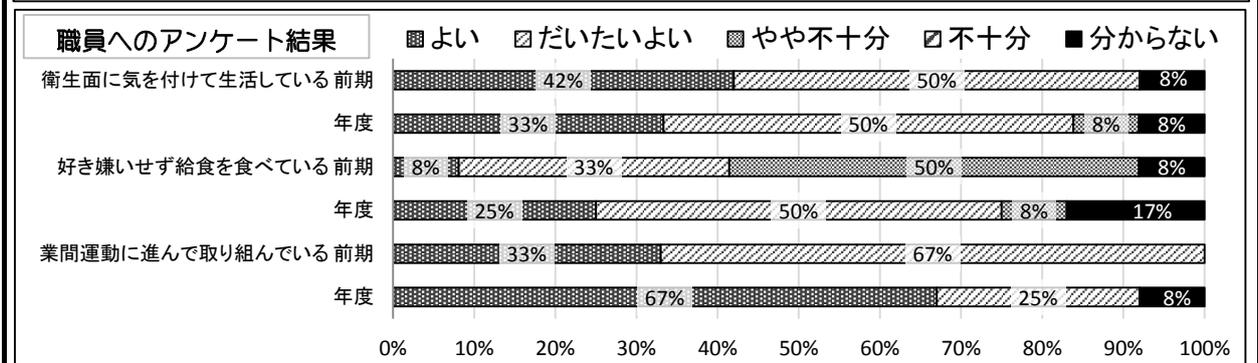
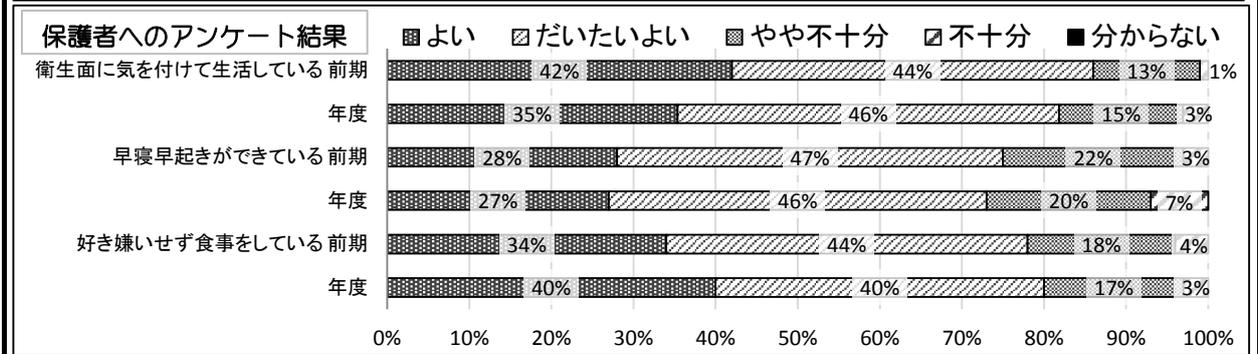
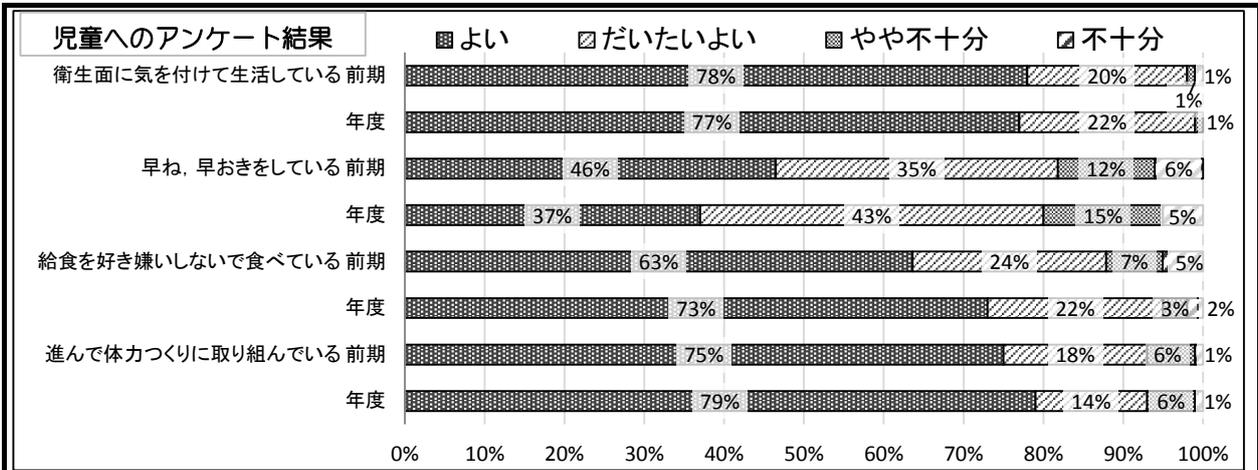
カッシーさん スキルチェックカード	年				
	17 (月)	18 (火)	19 (水)	20 (木)	21 (金)
学習用具の忘れ物なし					
チャイム席					
次の学習の準備					
聞き方レベル( )					
アタックスタート					
ふり返り					

〈スキルチェック〉  
学習習慣の定着を図った。  
話し方は、アタックスタートに焦点化した。

### Ⅲ 健康と体力

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
体力づくりと健康増進を推進しながら、心身ともに健康でねばり強く物事をやりとげる子を育成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	保護者より、メディアコントロール強調週間の時はがんばって取り組んだとのこと。メディア利用はゲームと動画が多いそうだ。生活習慣については、メディアは家庭学習が終わってから、寝る時間を決めて、などが定着している。6年生は食育の学習後、食品ロスについて考えるようになったとのこと。学習がフィードバックされている。体育の授業で動画の確認等にタブレットを使っていてすごいと思った。
	年度	良好	良好	体力の向上については、コロナ禍ではあるが、縄跳びの取りこませ方などに創意工夫があり、子どもたちが飽きずに取り組めるようにしているのがよい。食育については、いろいろ考えられた取組が行われ、アンケート結果もよくなっていることがよい。メディアについては、他校より使用時間が長いのが気になる。他校の児童より習い事をする児童が少なく、家にいる時間が長いのが要因かもしれない。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 (10)清掃指導は、縦割り班で協力して掃除に取り組んだり、清掃強調週間を行って丁寧に取り組んだりしている。今後も継続して、校内をきれいに保つことを心がけさせたい。手洗い指導では、4月に全校児童に手洗いの仕方をスライドで紹介し、衛生面への意識を高めた。また、休み時間後・給食の前・掃除の後に必ず手洗い・消毒をするよう呼びかけを行っている。保健委員会による身だしなみチェックでは、ハンカチ・ティッシュ等を持って来るよう呼びかけを行っており、児童・保護者共に衛生面に対する意識は高い。歯磨き指導については、養護教諭により、学級ごとに細やかな指導を実施することができた。学級では、歯磨きの順番シートを掲示したり、歯磨きCDを活用して3分間しっかり磨くことができるように取り組んでいる。家庭での歯磨きの仕方や回数には個人差が見られるため、今後も、親子で歯みがき週間などの機会を設けて家庭との連携を図っていく。また保護者・児童共に、早寝早起きに対してやや不十分であるという回答が多いため、メディアコントロールデーを機会として規則正しい生活を呼びかけていきたい。 (11)給食指導は、食に興味をもてるよう、給食センターから届く献立や季節の食材についての「一口メモ」を給食委員の児童が放送で紹介したり、完食調べを行ったりしている。また、栄養教諭と連携して、9月に食育の授業を行った。残食量も昨年よりも少なくなってきたので、今後も声かけをしていきたい。 (12)業間運動では、5月にマラソン運動を実施した。感染症対策と運動量の確保を目的として、低学年と高学年が走るコースを分けて実施したことで、昨年度に比べて運動量が増えた。学級ごとに達成目標を設定し、個々の目標も決めて取り組ませたため、ほとんどの児童が意欲的に取り組むことができた。また、休み時間には、グラウンドでサッカー、ドッジボール、キックベースボール等で意欲的に体を動かし、遊びを通して体力づくりに励んでいる。密にならずにどのような取り組みができるか、検討していきたい。			
	【年度(→次年度)】 (10)健康的な生活では、11月に1、2年生対象の手洗い指導を行った。手は思っている以上に汚れていることや正しい洗い方について指導した。全校朝会では、せきやくしゃみが遠くまで飛んでしまうことから、せきエチケットを守り感染症を予防する意識を高めることができた。基本的な感染症対策を継続するため、今後も声かけ・見届けを行っていく。10月に行ったメディアコントロール週間では、メディアの使用時間が他校に比べて長いという課題が明らかになった。そこで、保健委員会を中心にメディアとの付き合い方を全校に呼びかけたり、児童総会の議題として話し合ったりし、メディアの使用時間に対する意識を高める工夫を行ってきた。また、本校独自の「メディア・睡眠コントロール週間」を設定することで、メディア使用時間を減らし、睡眠時間を確保する大切さを継続して呼びかけていく。 (11)食育指導では、9月に主任栄養士を招いて食育に関する学習を行った。この学習を通して、給食は栄養バランスを考えて作られていること、作った人の気持ちが込められていることに気づき、苦手な食材でも食べようとする児童が増えた。5、6年生は、SDGsの視点から食品ロスを減らすための取り組みについて考えることができた。11月には、給食センターの残食量調査に合わせて給食委員会の完食調べを行った。前期に比べて残食量が減っており、食べることができる量が増えている。児童と職員のアンケート結果を見ても「好き嫌いせず食べている」という項目の数値が改善されていることが分かる。 (12)業間運動では、11月になわとび運動を実施した。昨年度、冬季期間に体を動かして遊ぶ児童が減ってしまう課題があったため、これまでの短縄に加え長縄での遊びを奨励した。また、雪が積もってからは、ランチルームで長縄を使用できるようにし、児童が体を動かしやすい環境を整えることができた。体育の授業を活用したり、他学年と長縄の記録を競ったりして意欲的に取り組ませることができた。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 健康的な生活習慣	(10) 健康な生活習慣の形成	清掃指導の充実 メディアコントロールデーの実施と指導 学級活動(生活習慣)・日常における歯磨き・手洗い指導の充実	3	3
	(11) 望ましい食習慣の形成	給食指導・食育指導の推進 栄養教諭との連携	3	4
7 体力の向上	(12) 継続的な体力づくりの実践	体力向上のための体育的活動・業間運動(マラソン・縄跳び)の実施 内外での遊びの奨励	4	4



#### 上小独自の「メティア・睡眠カード」

\*上川小メティア・睡眠コントロール週間\* カード 2学期

年 組 名前 \_\_\_\_\_

目標（がんばりたいことを具体的に書きましょう。）

◇目標を達成できた項目に○をつけましょう。

	12月19日(日)	12月20日(月)	12月21日(火)	12月22日(水)
就寝時間	○	○	○	○
メティア	○	○	○	○

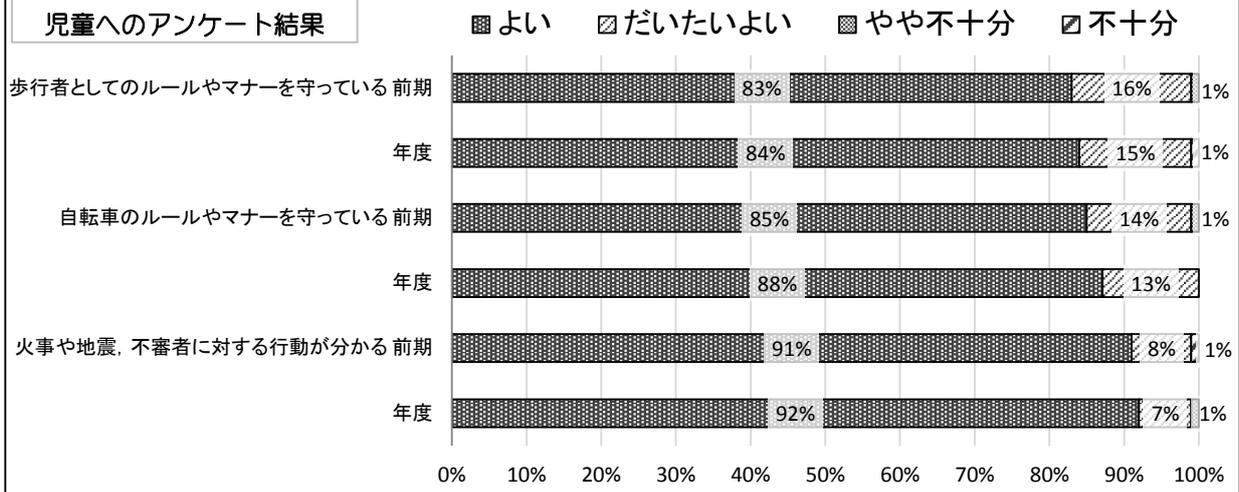
ふりかえり

## IV 安全・安心

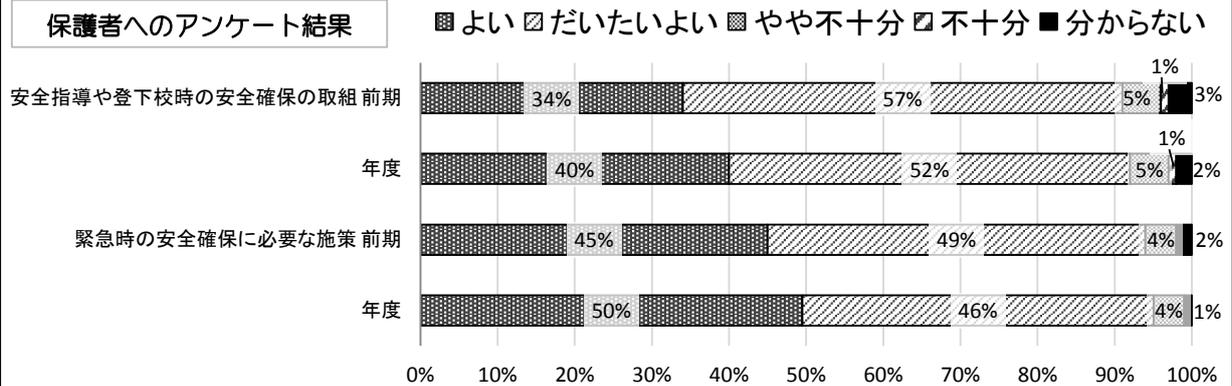
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童の安全確保に取り組んでおり、諸問題への組織的対応が図られている。	前期	良好	良好	アンケートの結果がよく、問題ない。自転車通学をしている子どもたちを地域で見ているが、危ないと思うところはない。保護者からは、通学路に歩道や横断歩道がないところがあり、危ないと思うので車での送迎になっているという話があった。
	年度	良好	良好	子どもたちは、安全に対する意識が高い。以前、樹海ラインの信号機のある交差点で、雪の壁で子どもが見えにくいことがあった。その場所で、低学年の子どもに高学年の子どもが声をかけて安全に気を付けさせたり、声をかけられた子どもが運転手に向かっておじぎをしたりするなど、安全に対する意識が感じられた。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>(13)ほとんどの児童が、歩行者として、また、自転車乗りの際にルールやマナーを守っている・だいたい守っていると答えている。4月に実施した交通教室では、1～3年は歩行指導、4～6年は自転車の乗り方指導を行った。今年は特に自転車の安全な乗り方について具体的に指導を行った。交通教室後も随時学級や全体で安全指導を行い、意識を高めている。スポ少の帰りの自転車乗りについて危険な場面が見られるとの連絡があったので、保護者と連携し今後も継続指導を行う。</p> <p>(14)1学期に地震と不審者対応の避難訓練を行った。不審者対応避難訓練では女性職員による防犯用器具の研修を行い、危機管理体制を強化した。警察による防犯教室も児童の危機管理意識を高めるために効果的であった。緊急メールの保護者登録は今年度も100%となり、熊・大雨への警戒、コロナウイルス感染防止等に関するメール配信を迅速に行うことができています。安全確保の施策については保護者アンケートでもよい評価をいただいた。9月に行う予定であった保護者への引き渡し訓練が感染症拡大防止のため中止となったので、感染症の収束の時期をみて行いたい。</p> <p>(15)4月の交通教室は、警察の方、上小子ども見守り隊やPTA生活指導部の方々と連携し、効果的に行うことができた。地域での見守りについては、見守り隊連絡協議会を開き、連携について確認した。上小子ども見守り隊の方々には下校後の生活を見守ってくださり、不審な行動の抑止力となっている。</p>			
自己評価の概要と学校の改善策	【年度(→次年度)】			
	<p>(13)歩行者・自転車の運転者としてのルールやマナーについては、前期と同様、ほとんどの児童が「よい」「だいたいよい」と答えている。9月には通学路安全推進事業として、1・2年生を対象に「歩行環境シュミレーター」を活用した交通安全教育を行い、低学年児童の歩行についての意識を高めることができた。また、徒歩での下校の時に、歩道のない道路を広がって歩いているという情報が寄せられた際は、すぐに関係児童への指導及び全校指導を行った。歩道のない通学路の多い地区なので、次年度も引き続き安全指導を徹底して行っていきたい。</p> <p>(14)9月に行う予定であった保護者への引き渡し訓練が実施できなかったため、11月に、火災を想定した避難訓練と合わせて、引き渡しを想定した訓練を行った。学級ごとに避難した後、児童を世帯ごとに並び替え、保護者役の職員へ引き渡した。子どもたちは職員の指示を聞き、整然と行動することができた。2月には、積雪時の火災を想定した避難訓練を行う。次年度も、地震・火災等緊急時を想定した危機管理を充実させていきたい。</p> <p>(15)前期に引き続き、上小子ども見守り隊の方々が見守り隊の様子を見守ってくださった。徒歩や自転車通学の児童が年々減少しているが、見守り隊の方々のおかげで不審な行動が抑止されている。また、保護者の方々には各町内で登校指導を行ってくださった。次年度も、関係機関との連絡を図り、安全確保・安全指導に努めていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 安全教育と安全管理	(13) 校内外における児童の安全確保	交通教室の実施や防犯意識の啓発 通学路点検 登下校指導 校舎内、校地内の安全点検	3	3
	(14) 緊急時を想定した事前・発生時・事後の危機管理	緊急連絡網の作成と緊急連絡体制の構築 災害別・季節別訓練の見直しと実施	4	4
	(15) 各諸団体と連携した安全確保・安全指導	交通安全指導 登下校の見守り活動の実施	4	4

### 児童へのアンケート結果



### 保護者へのアンケート結果



#### 〈11月：火災・保護者への引き渡しを想定した避難訓練〉

- ・休み時間の火災発生を想定。児童は各自避難経路を考えて避難した。
- ・児童を世帯ごとに保護者へ引き渡す場面を想定し、訓練を行った。



#### 〈2学期終業式後：生徒指導主事のお話〉

冬季の安全な生活について、写真や図を活用して指導を行った。

冬の危険箇所② 軒下・・・落雪があるので、絶対に軒下には行かない。  
校地内の立ち入り禁止ロープ内には絶対に入らない。



北塔校舎



多目的ホール前の渡り廊下

#### 〈3学期始業式の日：学級指導資料〉

積雪時の注意事項等、生活指導部が資料を作成し、各学級で具体的に指導を行った。

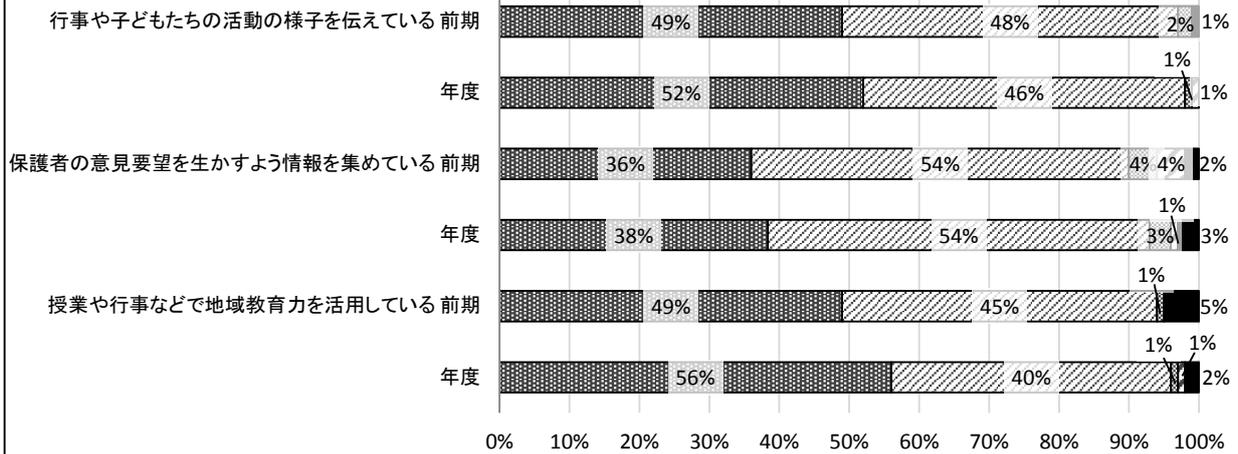
## V 保護者・地域との連携

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者や地域に学校の様子が伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	おおむね良好	良好	上小は、地域のひととの距離が近く、コミュニケーションを大切にしている。保護者からは、上小は子どもたちにとって学校の規模が丁度よいとの話があった。また、学校の環境を含め、非常に満足している感じであった。情報の発信も、保護者がよく受け止めている。保護者から学校に伺いたいことや相談したいことがある場合は、電話などで直接話をしたり聞いたりできるとありがたいとのことであった。
	年度	良好	良好	学校ブログは写真が多く、楽しく見ることができる。子どもの様子が見れるので親も安心する。地域の教育力の活用では、保護者が講師となった「お仕事を学ぼう」がよかったので継続してほしい。身近な人が講師となったので子どもが興味をもち、将来の夢をもつことにもつながる。地域の声については、おたよりへの児童の写真や作品の掲載の仕方に生かされていることがよい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】			
	<p>(16)(17)学校の情報発信や情報受信について、保護者の方々から、よい・だいたいよいを合わせると90%以上の評価を得ている。月1回の学校報や月2回の学年だよりを発行したり、ほぼ毎日ブログをアップしたりし、学校での児童の様子を紹介している。また、コロナ渦ではあるが、感染対策を十分に行い、行事を開催したり学校に来ていただく機会を設定したりしたことも高い評価につながったと考えられる。保護者の意見や要望などは、今後の経営に活かしていきたい。</p> <p>(18)異校種との連携では、一中学区小中連携研究会(一中会場)、小中合同あいさつ運動、南が丘こども園の保育参観(1年担任)、保健委員会リモート会議(中学校区ごと)などを行った。小中連携研究会では、授業参観後6つの部会に分かれて情報交換を行い、一中学区としてどのように子どもたちを育てていくべきかを確認することができた。今後も中学校やこども園との交流や情報交換を行い、連携を密にしていきたい。</p> <p>(19)今年度もたくさんの方々にご協力をいただき、多様な学習や豊かな活動が行われている。総合的な学習の時間での田植えや果樹体験、低学年の生活科などふるさとに結び付いた体験活動の他、民生委員の方々とのあいさつ運動や6年生による上川沿公民館への花の寄贈など、活動の幅を広げている。</p>			
自己評価の概要と学校の改善策	【年度(→次年度)】			
	<p>(16)情報発信については、全体で98%の保護者が「よい・だいたいよい」と答えている。ブログでは、行事の他児童の作品等も紹介したことで閲覧数が増えている。また、学年だよりでは児童の作文や活動の写真も多く掲載している。学校での様子が伝わる情報発信が高い評価につながっているものと考えている。</p> <p>(17)情報受信についても、全体で「よい・だいたいよい」と答えが92%と保護者の方から肯定的な評価を得ている。学年だよりに掲載する児童の写真の回数を配慮するなど、保護者・地域の方の声や前期アンケートでいただいたご意見などを検討し、教育活動に生かすようにしてきた。</p> <p>(18)異校種間の情報交換と多様な連携では、6年生が一中での体験入学を行い、中学校生活への見通しをもつことができた。2月には、来年度本校に入学する子どもたちの体験入学やこども園の先生の授業参観、小1と年長組との活動の様子ビデオ交換を計画している。幼・小・中の連携を図り、4月からの新生活がスムーズに進められるよう努めていきたい。</p> <p>(19)地域の教育力の活用では、「よい・だいたいよい」を合わせると96%の保護者が肯定的に捉えている。「上小教育の日」に児童・保護者対象の研修会として本校の保護者が講師となった「プロフェッショナル～お仕事を学ぼう～」を開催し、好評を得た。また、総合学習「とびっきりの上川沿」で、米やりんごを保護者に販売したり、地域の特産品であるりんごとにんにくを使って焼肉のたれを作ったり、上小学区の特徴を「ふるさとカルタ」にまとめたりと、地域と結び付いた活動を行うことができた。今後も地域の方々と協力して児童の成長につながるような教育活動を考えていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 情報の受発信と学校経営への反映	(16)保護者・地域への定期的な情報受発信	各種おたよりの発行やホームページの更新・改善による情報の発信 学校評価アンケート等での情報の受信	4	4
	(17)学校の使命と保護者・地域の声を生かした経営	学校評価・経営反省を生かした経営計画の修正と改善	3	4
10 幼保・小・中の連携	(18)異校種間の情報交換と多様な連携	授業参観等と交流行事の実施 一中学区小中連携研究会 幼小連携活動	3	3
11 豊かな体験活動	(19)地域の教育力の活用	とびっきりの上川沿・授業・行事での地域素材・人材の活用 「上小教育の日」の実施 PTA総務部と連携した出前授業の実施	4	4

保護者へのアンケート結果

■ よい □ だいたいよい ■ やや不十分 □ 不十分 ■ 分からない



<「上小教育の日」5・6年生による米とりんごの販売>  
5年生は自分たちが育てた米, 6年生は3年生が収穫したりんごにオリジナルのラベルを貼って販売。りんごには6年生が作成したパンフレットも添えた。

5年生が販売した米  
「28スマイルライス」  
(28スマイルライス)



<プロフェッショナル～お仕事を学ぼう～「消防士」>  
「上小教育の日」のPTA総務部研修会で, 9種類のお仕事を紹介された。5年生が進行し, 保護者も一緒に講話を聞いたり実際に体験したりした。



<「とびっきりの上川沿」4年生～焼肉のたれ作り>  
上川沿地区のにんにくと3年生が育てたりんごを使い, JAあきた北青年部の方と一緒に作った。できたてのたれを焼肉にかけて試食した。



6年生製作  
ふるさとカルタ



一中  
体験入学  
(6年生)